

1 海況予測

(1) 現況

黒潮は、C型流路となっています。

熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部は概ね冷水域にあります。

(2) 予想

黒潮は、平成27年4月はC型で推移し、5月以降はN型傾向となる予想です。

水温は、熊野灘から伊豆諸島北部域がおおむね「平年並～やや低め」で推移する予想ですが、一時的な暖水波及により高めとなる時期があると予想されています。

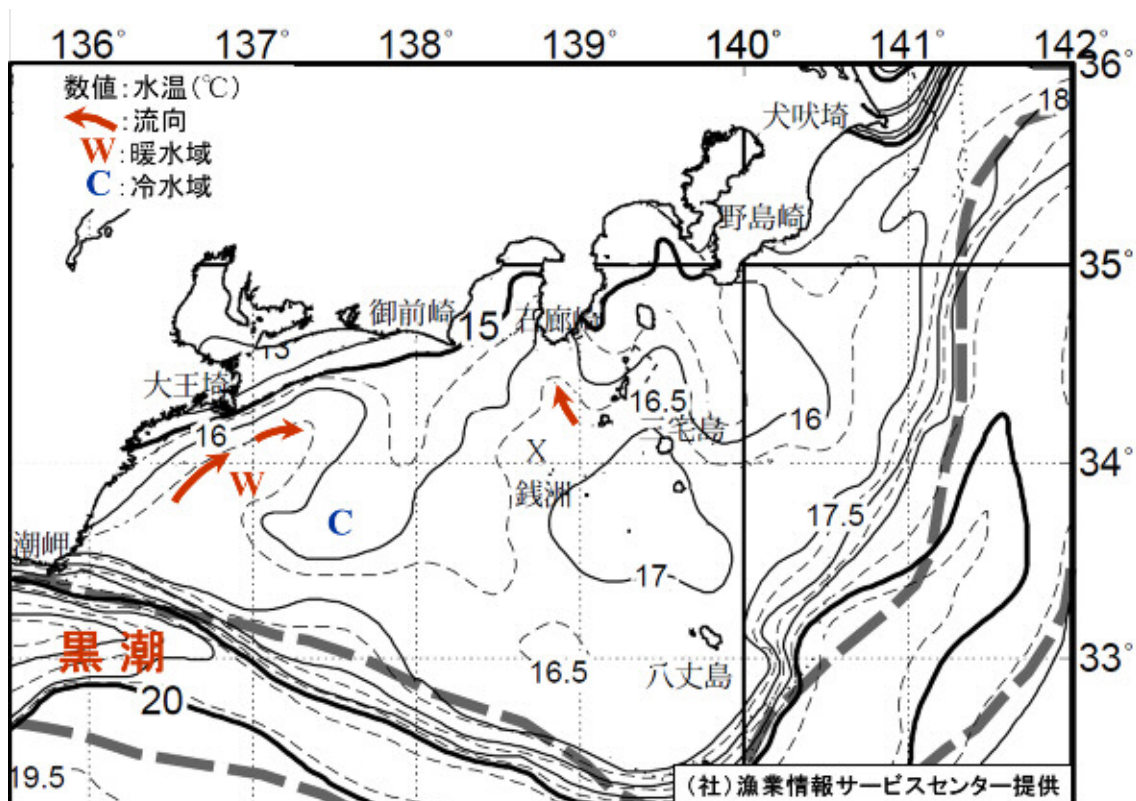


図1 海況の現況[2015年4月8～9日]

## 2 イワシ類長期予報（平成27年4月～7月）

今後7月までの太平洋海域におけるイワシ類の長期予報が、本県を含む関係機関による検討を経て、3月27日に水産庁から発表されました。このうち、本県および周辺海域の予報は以下のとおりとなっています。

### (1) 4～7月シラス（渥美外海～駿河湾）

渥美外海では前年並み。遠州灘～駿河湾では前年を下回る

予測期間の黒潮流路がシラスの来遊がある程度期待されるC型～N型で推移すると考えられることから、渥美外海への来遊量は前年並と予測されます。一方、遠州灘～駿河湾では太平洋海域全体のカタクチイワシ資源量が減少傾向であること、3月～6月のシラス漁獲量との関係等から、好調であった前年を下回ると予測されます。

### (2) 4～7月カタクチイワシ（熊野灘～相模湾）

熊野灘では前年を上回る。伊勢・三河湾～渥美外海、駿河湾、相模湾では前年並み。

太平洋海域全体の資源量は減少傾向であり、2013年級群が低調であることから、漁獲の主体は0～1歳魚となる予測されます。

伊勢・三河湾～渥美外海では、2014年秋期の県内シラス漁獲量が好漁であったことから、これらが成長した0歳魚の加入が見込まれ、平年を上回った前年並みと予測されます。

### (3) 4～7月マイワシ（伊勢・三河湾～相模湾）

伊勢・三河湾、渥美外海では前年並。駿河湾および相模湾北部では前年並～上回る。

例年、伊勢・三河湾では、その年の冬～春に生まれた0歳の未成魚を主体に漁獲しています。

愛知県での平成26年12月のマシラス漁獲量は37.5tと高水準であったこと、3月31日のサンプルではマシラス混獲率は37.7%と高くなっていることから、主体となる0歳魚は平年を上回り、昨年並みと予想されます。

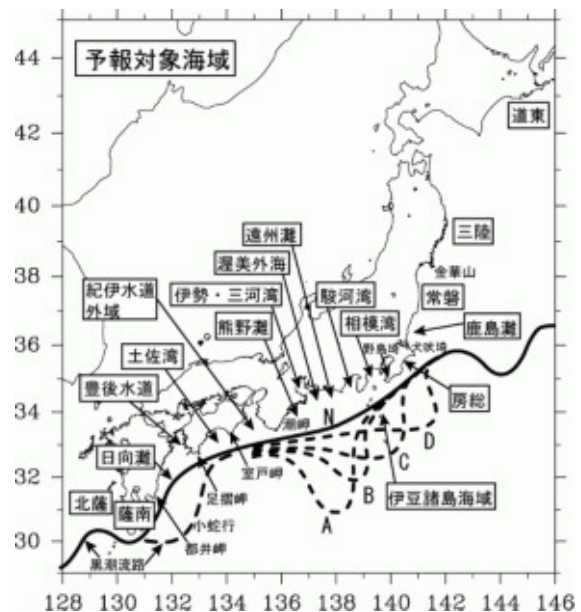


図 イワシ類長期予報対象海域

### 3 イカナゴ

3月6日に解禁したイカナゴ漁は、3月27日の出漁をもって、愛知は操業を終了しました。資源が少ないと予測されていることから、三重県の操業も3月31日をもって終漁しました。

愛知県における今季の水揚げは、累計で漁獲量は約2,000トンとなり、平年の35%となりました。一方、金額は、単価が高かったこともあり、約5億3,000万円となり、平年の約6割以上を確保することができました。

表1 2015年漁期イカナゴ漁況（愛知）

	日付	統数	漁獲量 (カゴ)	漁獲量 (トン)	単価 (円/カゴ)	金額 万円	サンプル平均		漁獲尾数 (億尾)	1ヶ統あたり 漁獲尾数 (100万尾/統)
							体長 (cm)	体重 (g)		
2015										
解禁日	3/6	110	9,445	189	9,868	9,320	4.29	0.287	6.6	6.0
2日目	3/8	109	13,135	263	7,586	9,964	4.79	0.433	6.1	5.6
3日目	3/9	111	11,883	238	7,672	9,116	4.67	0.393	6.1	5.5
4日目	3/13	109	8,550	171	8,381	7,165	4.91	0.477	3.6	3.3
5日目	3/17	108	15,928	319	5,646	8,993	5.27	0.611	5.2	4.8
6日目	3/20	108	21,090	422	2,702	5,699	6.33	1.068	3.9	3.7
7日目	3/27	81	18,889	378	1,625	3,070	6.84	1.406	2.7	3.3
合計			98,920	1,978	5,391	53,327	—	—	34.1	—

表2 近年の加工用、餌料用別イカナゴ漁況（愛知）

年	解禁日	加工用			中間休漁 期間(日)	餌料用			総漁獲量 (t)	総金額 (万円)	
		終漁日	日数	漁獲量(t)		金額(万円)	再開日	終漁日			日数
2010	3/3	4/25※	19	6,820	122,807	なし	4/30	6/9	24	10,450	137,957
2011	3/11	4/13	12	3,490	56,301	15	4/21	5/25	17	6,240	66,060
2012	3/8	3/30	11	4,221	58,815	15	4/15	5/27	19	7,652	72,539
2013	2/28	3/31	15	4,101	86,360	—	—	—	—	4,101	86,360
2014	3/2	4/2	14	4,449	95,648	10	4/13	5/14	13	5,508	100,745
2015	3/6	3/27	7	1,978	53,327	—	—	—	—	1,978	53,327

※中間休漁が実施されなかった2010年の加工用終漁日は、近年の操業状況を元に、出漁統数が60ヶ統を下回った時点として判断した。

解禁以降における『1 ヲ統あたり漁獲尾数』の変化から推定した今季の初期資源尾数は、80~90 億尾程度と見込まれます。

加工用終漁までの両県の漁獲尾数は、累計で約 56 億尾と算定され、資源量の面からは、20 億尾以上を来期の親魚として確保できたと考えています。

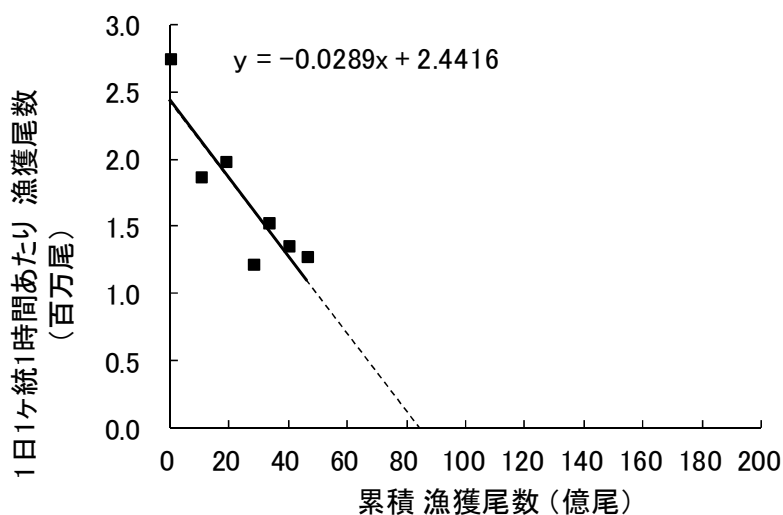


図 2015 年漁期における初期資源尾数の推定（デルーリ法）

表 3 近年の伊勢・三河湾におけるイカナゴ資源状況（愛知、三重）

年	初期資源尾数(億尾)	漁獲尾数(億尾)	残存資源(億尾)
2008	180	137	44
2009	44	23	20
2010	504	359	145
2011	283	247	36
2012	321	268	53
2013	302	216	87
2014	292	244	48
2015	80~90※		
平均	275	213	62

※推定値

\* 最新の情報については、インターネットの水試 web ページから『イカナゴ情報』をご覧ください。（<http://www.pref.aichi.jp/suisanshiken/>）